

私の授業～うまくいったこと、いかなかったこと

所属	経済学部	氏名	大野 弘明
テーマ	私のゼミナール		
<p>教歴 12 年程度で、たくさんの先生の目に入るかもしれないような FD 関係の作文をすることにおこがましきを感じつつ、執筆が途絶えているとのことでしたので、僭越ながら私のゼミナールについて紹介してみたいと思います。私のゼミでは、ファイナンスの理論と実証をテーマに 3 年次に体系的に書かれている書籍を読み進めながら、同時並行で夏合宿での龍谷大学との研究報告会に備え、ハンドブックやサーベイ論文をグループごとに読んで、関心を持った比較的新しい欧米の実証研究を日本のデータにおきかえて分析をおこないます。この作業を通じて 3 年次生にはオリジナリティよりもまずは作法を理解してもらうこととなります。4 年次には就職活動が終わり次第、3 年次のグループワークを発展させるなどして卒業論文の執筆に取り組むこととなります。</p> <p>ファイナンス分野では数学と統計を用いて資産価格の形成について分析しますが、数学受験ではないという理由から敬遠する学生も少なくありません。それでも毎年 20 名弱の学生がゼミに参加し、卒論まで執筆して卒業していきます。まだまだ模索段階ではありますが、私のゼミの特徴らしきものを考えてみると下記に集約されるように思います。</p> <p>一つ目は入ゼミの段階でいかに卒業までのビジョンを煽るかです。この点は特に試行錯誤を繰り返しています。現時点では進路の決定と卒論の執筆を二大到達目標に掲げることにしています。経済学部では卒業論文の執筆は卒業要件に含まれておりませんので学生からすれば撤退オプションが存在します。そのため、就職活動でゼミでの学習内容をアピールするだけして、就職活動が終わり次第さっさとゼミを辞める（近視眼的な）選択をする学生が発生します。この問題を回避するためには卒業論文のポジティブな面を早い段階から伝えていくことが有効です。たとえば、新しい手法や考え方を自分自身で咀嚼し、新しいことに挑戦することが自身の将来にいかに有効かを伝えることが効果的です。また、卒論を執筆した OBOG からの叱咤激励もあり高い卒論提出率に至っているように思います。</p> <p>また、私は 2 コマ続きでゼミの時間を設定しています。3、4 年生の間にはレベルにかなりの差がありますので、通常は別々に運営しています。一方で 4 年生は就職活動、学習面など情報優位にありますので、効果的に 4 年生の情報を引き出すために、就活座談会、3 年生のグループワーク報告会、卒論中間報告会、OBOG 会など 3、4 年生で合同のゼミをおこなう機会をやや過剰に設けています。また、懇親会と称した OBOG や 3、4 年生が参加する飲み会の機会が多いのも特徴です。ただ、年齢のせい、学科主任の仕事のせいかは定かではありませんが、そろそろ体力がもたなくなってきましたので、懇親会の頻度を減らそうかと考えています。7 月 16 日付で今年度の飲み会がすでに 10 回をこえていることに気が付きました。これはさすがにやりすぎだと思います。ゼミ終了後に目を輝かせながらやってくる学生たちを今後どう対応していくかが今後の持続可能性上の課題になりそうです。</p>			